



# 株式会社セック

**S**ystems **E**ngineering **C**onsultants Co.,LTD.

<https://www.sec.co.jp/>

銘柄コード：3741

## 2020年3月期 決算補足説明資料

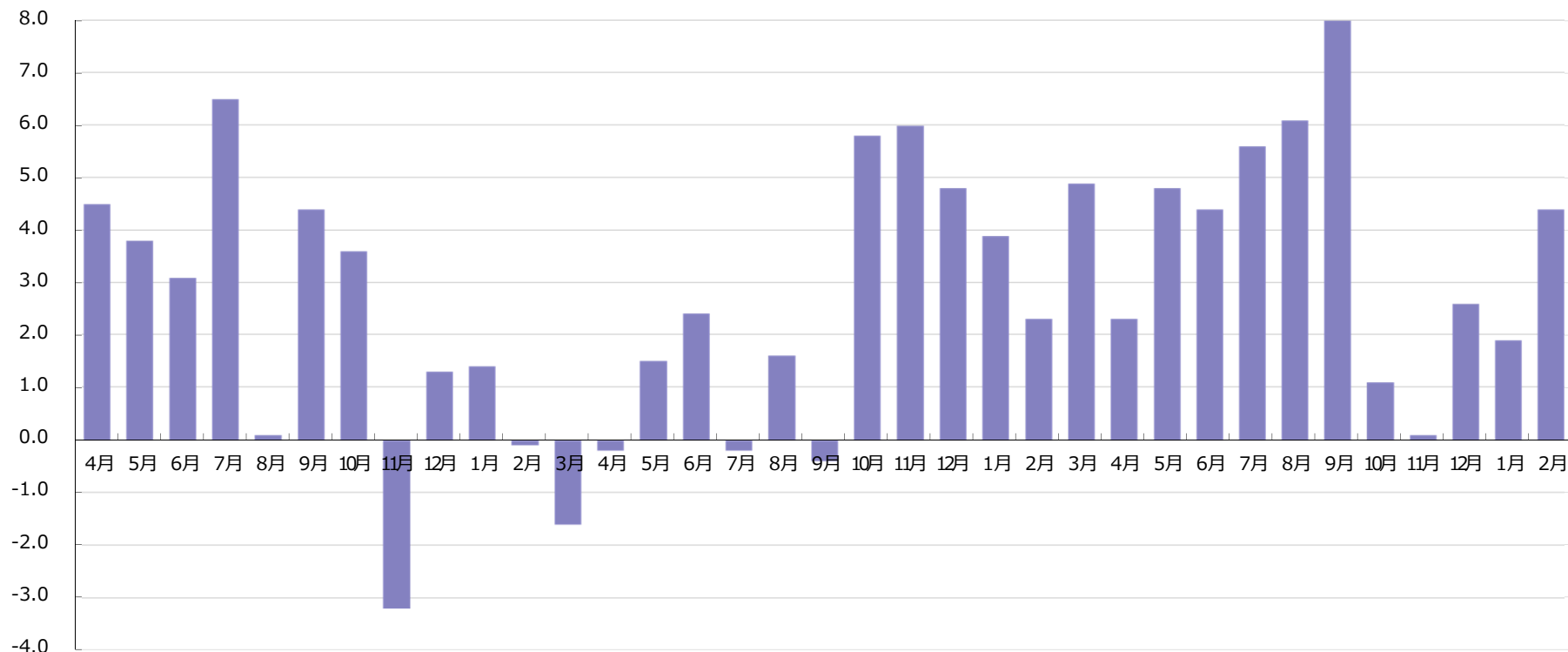
2020年5月14日

# 2020年3月期 決算概要

## 2020年3月期の事業環境

情報サービス業売上高前年同月比推移（経済産業省：特定サービス産業動態統計）

単位：%



前年同月比の月別売上高は、2018年10月以降17ヶ月連続で増加しており、「IT需要は全体的には概ね堅調」と推察される。

# 2020年3月期総括

## 売上高、営業利益、経常利益の全てで過去最高、前年同期比で3期連続の増収増益

売上高	: <u>6,343</u> 百万円	前期比	6.1%増		
営業利益	: <u>930</u> 百万円	前期比	13.0%増	利益率	14.7%
経常利益	: <u>999</u> 百万円	前期比	12.4%増	利益率	15.8%
当期純利益	: <u>687</u> 百万円	前期比	12.1%増		

## 受注高、受注残高ともに過去最高、前年同期比で受注高は5期連続の増加

受注高	: <u>6,648</u> 百万円	前期比	3.7%増		
受注残高	: <u>2,345</u> 百万円	前期比	14.9%増		

## 先端技術を窮め、オープン・イノベーションで事業成長を目指す

- 需要構造が変化し、モバイルネットワークBFから宇宙先端システムBFへ、売上高比率トップのBFが交代
- 電機メーカー向けのスマートフォン関連の開発が減少
- 官公庁案件をはじめとした社会公共分野の開発案件が増加
- ロボットの研究開発案件や宇宙天文分野の開発案件が増加

# 損益計算書

	2019年3月期 (百万円)	2020年3月期 (百万円)	前期比 (%)	修正予想(10月) (百万円)	計画達成率 (%)
売上高	5,981	6,343	106.1	6,200	102.3%
売上原価	4,310	4,568	106.0	4,420	103.4%
売上総利益	1,670	1,775	106.3	1,780	99.7%
販売管理費	847	844	99.7	860	98.2%
営業利益 (営業利益率)	823 (13.8%)	930 (14.7%)	113.0	920 (14.8%)	101.2%
経常利益 (経常利益率)	889 (14.9%)	999 (15.8%)	112.4	990 (16.0%)	101.0%
当期純利益	613	687	112.1	680	101.2%

売上原価 社員数の増加とベースアップ、確定給付年金の運用損の影響により人件費が増加  
外注費も増加(外注費 20.3億円、前年同期比4.5%増、売上高外注比率32.0%、前期32.5%)

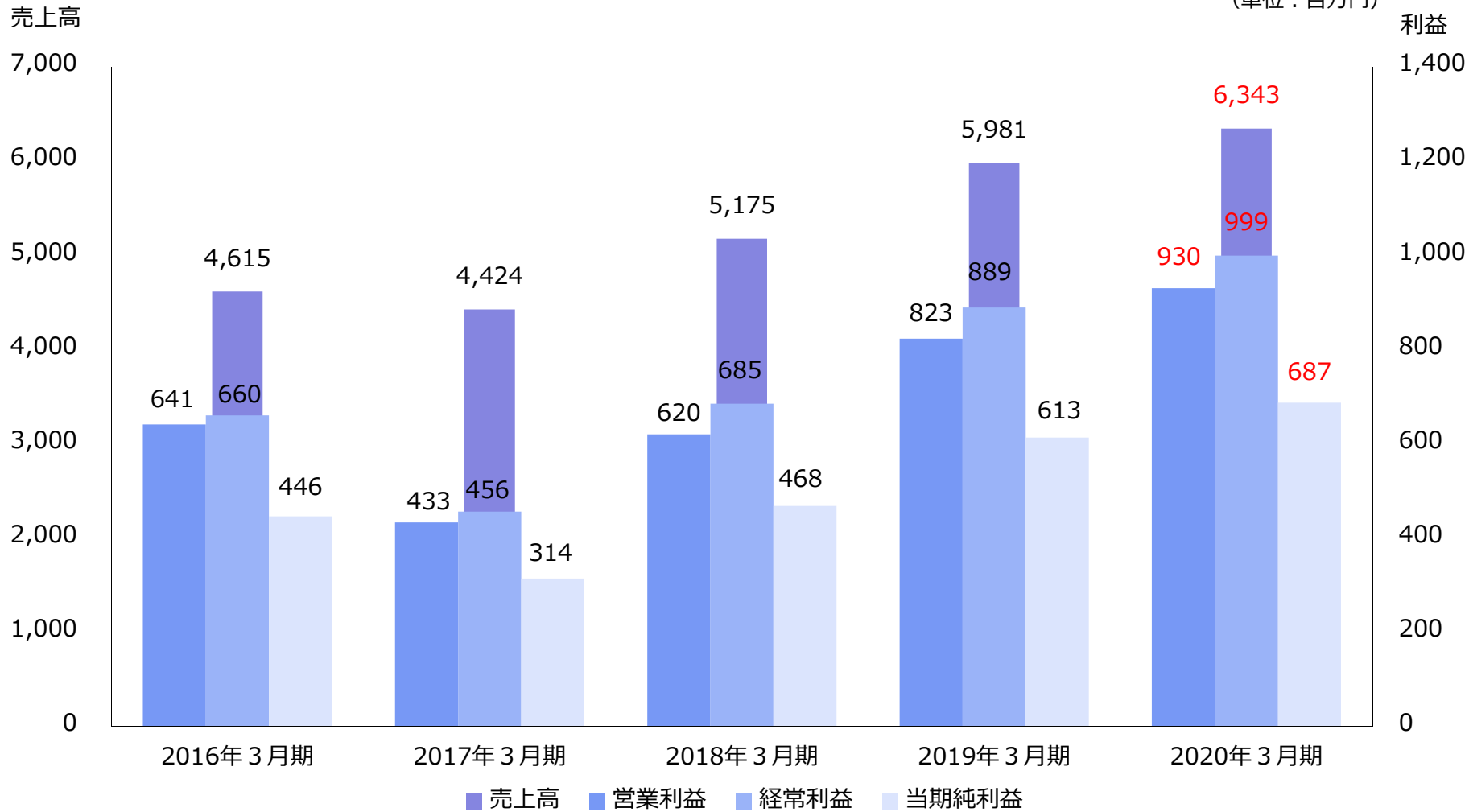
販売管理費 新入社員の増加などにより労務費が増加したが、研究開発費が減少  
(研究開発費は71百万円で、前年同期比で15.6%減少)

営業外損益 研究開発の補助金収入は20百万円(前年同期は21百万円)、受取出向料が増加

# 決算業績推移（過去5年）

売上高、営業利益、経常利益の全てが過去最高

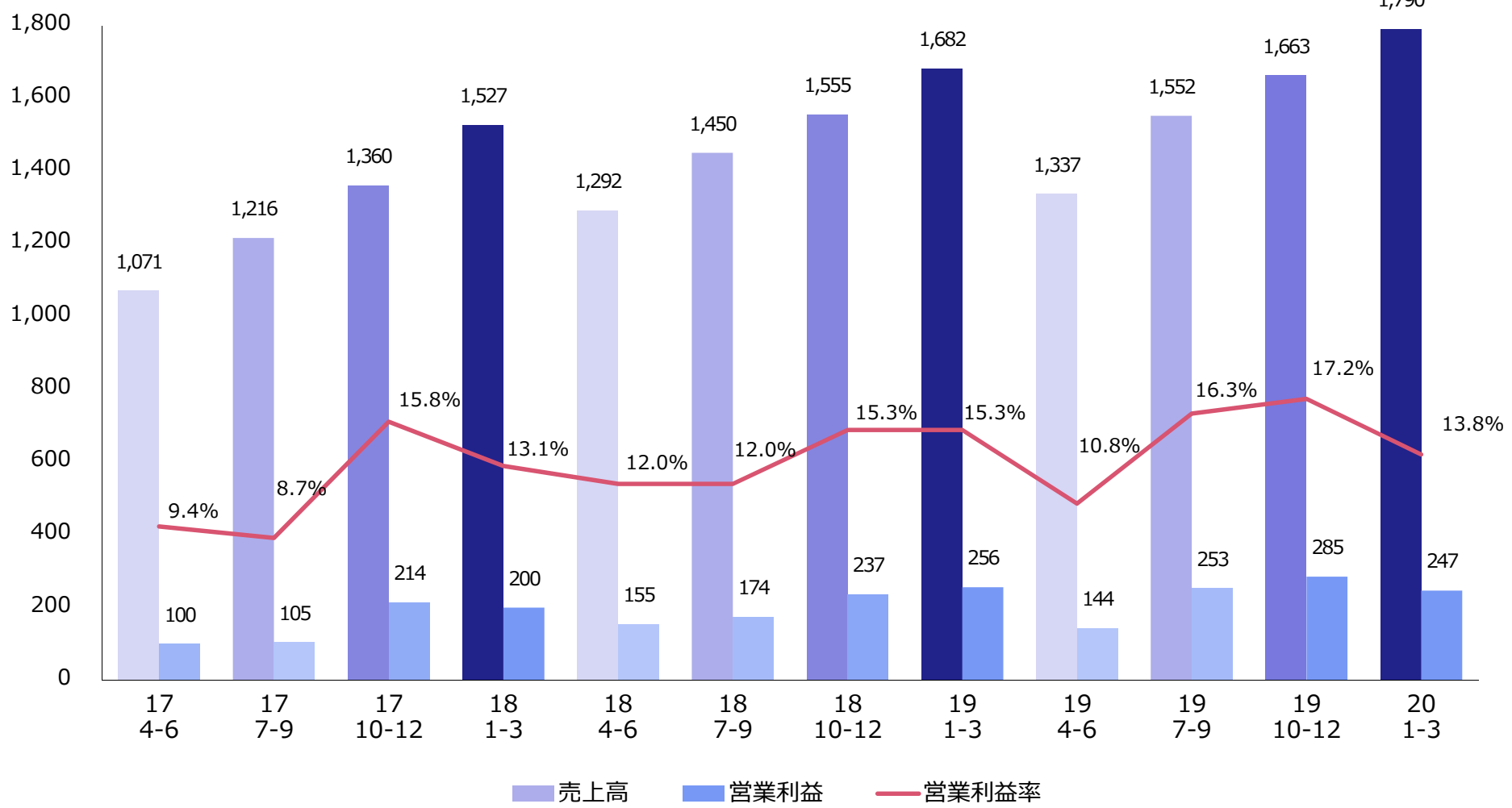
(単位：百万円)



# 四半期業績推移 (P L)

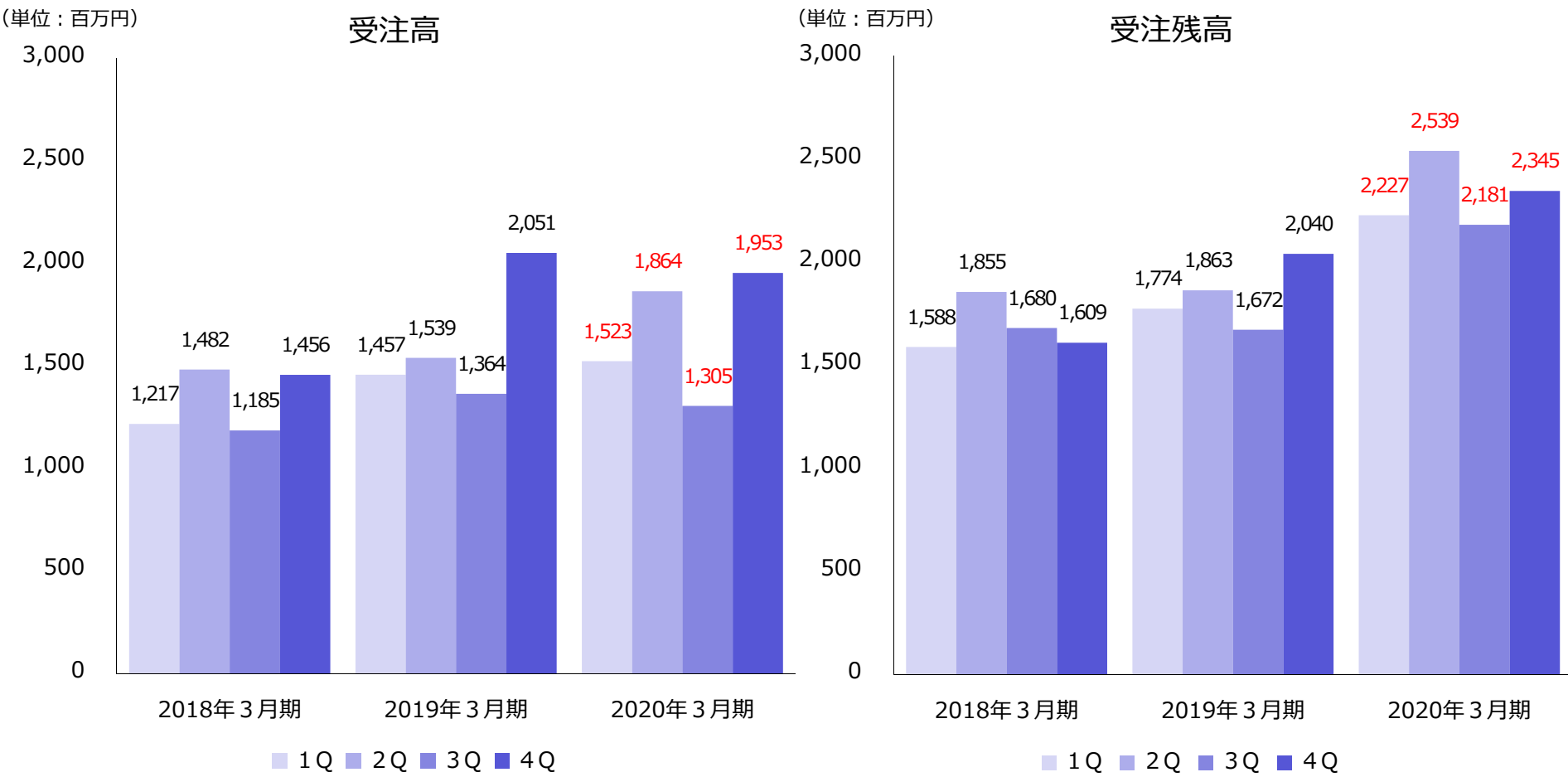
第1四半期は増収減益、第2・第3は増収増益、第4は増収減益

(単位：百万円)



# 四半期業績推移（受注状況）

受注高は第1、第2四半期で過去最高、受注残高は全ての四半期で過去最高





# B F 別の状況

## 宇宙先端システム B F が大幅に増加

ビジネスフィールド	2019年3月期		2020年3月期		
	売上高 (百万円)	構成比 (%)	売上高 (百万円)	構成比 (%)	前期比 (%)
モバイルネットワーク	1,636	27.4	1,243	19.6	76.0
インターネット	1,252	20.9	1,226	19.3	97.9
社会基盤システム	1,577	26.4	1,769	27.9	112.2
宇宙先端システム	1,514	25.3	2,104	33.2	138.9
合計	5,981	100.0	6,343	100.0	106.1

- モバイルネットワークBFは、移動体通信事業者向けのサービス系の開発や電機メーカー向けのスマートフォン関連の開発が減少
- インターネットBFは、民間企業向けの大型案件の開発が堅調、非接触 I C 搭載ソフトウェアの開発が減少
- 社会基盤システムBFは、放送分野が減少、官公庁案件や交通系のモバイル決済関連の開発が増加
- 宇宙先端システムBFは、ロボットの研究開発案件が堅調、宇宙天文分野の開発が増加

# B F 別構成比

需要構造が変化し、宇宙先端システムB Fが売上高トップのB Fへ

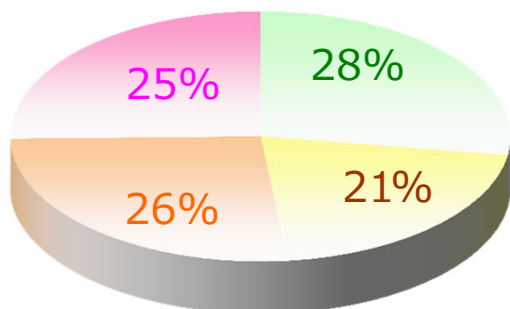
## 宇宙先端システムB F

車両自動走行を含めたロボットの研究開発案件が堅調、宇宙天文分野の開発が増加

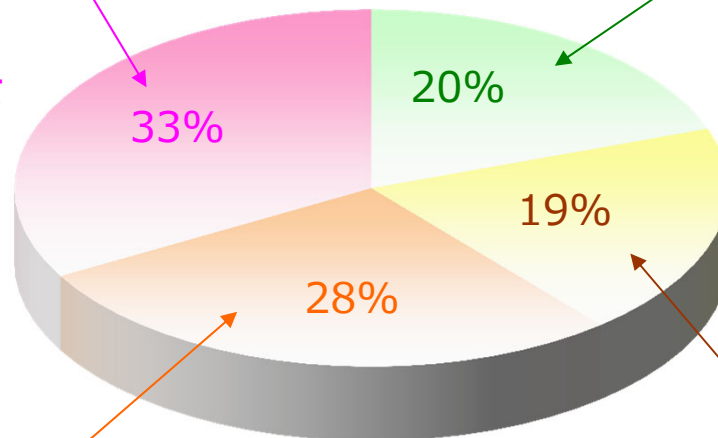
## モバイルネットワークB F

移動体通信事業者向けのサービス系の開発や電機メーカー向けのスマートフォン関連の開発が減少

需要構造の変化に応じて  
柔軟に対応



2019年3月期



2020年3月期

## 社会基盤システムB F

放送分野が減少、官公庁や交通系のモバイル決済関連の開発が増加

## インターネットB F

民間企業向けの複数の大型案件の開発が堅調、非接触I C搭載ソフトウェアの開発が減少

# B F 別受注状況

## 宇宙先端システム B F が大幅に増加

ビジネスフィールド	2019年3月期		2020年3月期			
	受注高 (百万円)	受注残高 (百万円)	受注高 (百万円)	前期比 (%)	受注残高 (百万円)	前期比 (%)
モバイルネットワーク	1,587	324	1,218	76.8	299	92.3
インターネット	1,292	273	1,246	96.4	293	107.4
社会基盤システム	1,983	1,089	1,841	92.9	1,161	106.6
宇宙先端システム	1,549	353	2,341	151.2	591	167.2
合計	6,412	2,040	6,648	103.7	2,345	114.9

(受注残高のうち、今期の売上高に貢献するのは2,014百万円、前期(1,671百万円)と比較し20.5%の増加)

- モバイルネットワークBFは、電機メーカー向けのスマートフォン関連が減少したため、受注高は減少
- インターネットBFは、非接触IC搭載ソフトの開発が減少したため、受注高は減少
- 社会基盤システムBFは、前期に大型の官公庁案件を受注した影響により、今期の受注高は減少
- 宇宙先端システムBFは、ロボット案件や宇宙天文分野の開発が増加したため、受注高は大幅に増加

# ロボットビジネスの状況

**実績 (2020年3月期 売上高約 1,410百万円)**

← 前年同期約 1,137百万円 ← 前々年同期約 685百万円)

## 車両自動走行は大幅に増加、サービスロボットの研究開発案件も増加し、全体で増加

- 大手自動車メーカーからの車両自動走行研究ソフトウェアなどの開発案件が大幅に増加  
⇒ 車両自動走行に関連したモビリティサービスやAIなどの研究開発案件も増加
- 大手自動車、電機、機械、建築メーカーからの実用化に向けての研究開発案件が堅調  
⇒ 技術的には、システムエンジニアリング、ROS・RTM（ミドルウェア）などの標準化技術、自律移動ソフト（Rtino）、コンピュータビジョンソフト（Rtrilo）などを使った受託開発が主流  
⇒ 分野的には、無人搬送車、船舶、ドローン、警備、業務用掃除機など広範囲  
⇒ 顧客層は拡大傾向

## 今後の方針 実用化に向けて、全方位でチャンスを見逃さない

### 3つの強みで展開

- ロボット標準化技術（RTミドルウェア、ROS）ビジネスの推進  
⇒ 試作機の開発、製品化・実用化（ラストワンマイル）、教育、コンサルなど
- 製品適用ビジネスの推進  
⇒ 自律移動ソフト(Rtino)、コンピュータビジョンソフト(Rtrilo)、機能安全ソフト(RTMSafety)など  
製品+α（複数台制御、開発、教育、コンサルなど）のビジネス
- ロボット高付加価値化ビジネスの推進  
⇒ ロボット+α（エンジニアリング、AI、MR、画像認識、RaaSなど）のビジネス

# 2021年3月期 通期業績見通し

# 2021年3月期業績見通し

## 需要構造の変化への対応のため、売上高は微増の計画

(単位:百万円)

	2020年3月期 実績	2021年3月期 業績予想	前期比 (%)
売上高	6,343	6,400	100.9
売上原価	4,568	4,640	101.6
売上総利益	1,775	1,760	99.2
販売管理費	844	910	107.8
営業利益 (営業利益率)	930 (14.7%)	850 (13.3%)	91.3
経常利益 (経常利益率)	999 (15.8%)	890 (13.9%)	89.0
当期純利益	687	620	90.1

売上高 新型コロナウイルス感染症の影響により上期は減少、下期は回復、通期で微増の計画





売上原価 社員の8割をリモートワークに移行、設備投資や昇給を含めた人件費の増加を見込む

販売管理費 間接部員の最適化による労務費の増加、研究開発への投資などにより、増加を見込む

営業外損益 研究開発の補助金収入が前期より減少

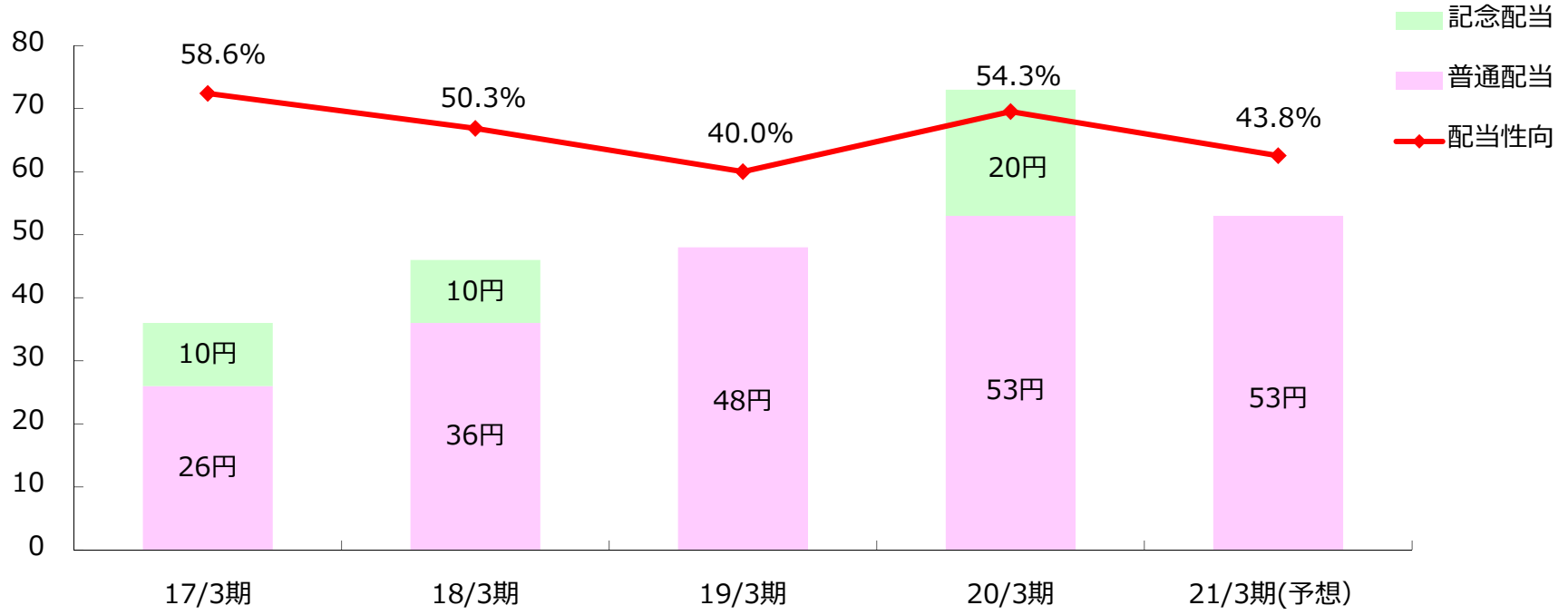
# 2021年3月期B F別業績見通し

## 前期同様に宇宙先端システムB Fが増加する見込み

ビジネスフィールド	期初の想定	予想
モバイルネットワーク	移動体通信事業者向けのサービス系の開発は前期並みを見込むが、電機メーカー向けのスマートフォン関連の開発が減少し、全体では減少	
インターネット	民間企業向けのWEBシステムの開発が、設備投資抑制により若干の減少を見込む	
社会基盤システム	官公庁系の開発や防衛分野の商談が引続き堅調で、前期並み	
宇宙先端システム	車両自動走行を含めたロボットの研究開発案件が堅調で、宇宙天文分野の開発も増加傾向にあり、全体で増加	

# 配当の方針

- 当面、配当性向は40%を目安とする。
- 2021年3月期は前期と同額の1株当たり53円の配当予想とする。



※ 2016年10月1日付で、1：2の割合で株式分割を実施していますが、2017年3月期の期首に株式分割を実施したものと仮定して配当金を表示しています。

- この資料の目的は、当社へのご理解を深めていただくためのIR情報をご提供することであり、投資の勧誘を目的としたものではありません。投資につきましては、ご自身でご判断願います。
- この資料には、当社の現在の計画、戦略、将来の業績に関する見通しなどが記載されております。こうした記述は、当社の将来の業績を保証するものではなく、経営環境をはじめ、さまざまな外部的要因の影響等により変化しうることをご承知おきください。
- この資料の作成に際しましては、細心の注意を払っておりますが、内容につきましていかなる保証を行うものでなく、この資料を使用したことによって生じたあらゆる損害などについて、当社は一切責任を負うものではありません。